

「學者達——即ち學術に全生命を投けうつてゐる人——は必ずいつの日か、絶えず追求してゐる眞理を知りつくすことによつて報ひられるものであることを自分は、はつきりご望み且つ信じて行きたいものであります」

『この言葉によつてアンドワイエ夫人並に子息の苦痛が幾分にも軟らがんことを望みます。こゝに家族の人々に謹んで哀悼の意を表する次第であります。』

因に氏は1862年十月パリに生れた。ポアンカレ氏の後繼者としてソルボンヌで天體力學の講義をし、かたはら經度局に入つて天文曆を編纂した。行年68歳である。

F. ボケー氏 逝く

近着の *Astronomie* 誌は佛蘭西の有名な天文學者ボケー氏の死を報じてゐる。アンドワイエ教授の死についで昨年七月十七日に、氏は吾々の世界からきえて了つた。當時あつた天文學校にも譯すべき學校に入つて、そこを出るまで直に、パリ天文臺に入つた。彼の研究は極めて多方面であつたが就中子午線觀測並に天體力學では一家をなしてゐた。攝動函數を八次迄展開して學位をえたが子午線觀測の方面では *Les observations méridiennes* なる著述を残してゐる。天文學の歴史にも詳しく、その方面の著には *Histoire générale de l'Astronomie* がある。彼の死は寂びれ行く佛蘭西の天文學界に悲しむべき事でなくて何であらう。

彼の遺稿「天文學漫談」が「天界」誌上に譯される機會のあることを望んでゐる。

『星』 生 る

こん度、會員有志の思ひ付きで、『星』といふ名の新しい天文雑誌を作ることにした。之れは先日の同好會總會協議會の模様に刺激されて生れたものであつて、天文趣味者にも、天文の専門家にも、同様に好かれる面白い繪入雑誌といふ事を目標としてゐる。御手なみを一つ見て頂きたいため、そして尙ほ一般の會員たちの御批評ご御忠告をご得たいために、當分の間は『天界』の附録として、同封し御送りする、しかし、御望みの方々には特に實費（一部金30錢）を以つて御わけします。（星の同人）